



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

97.3.3 No. 4556

千葉の地でも JR総連解体 組織拡大へ!

全ての組合員の皆さん！
JR総連解体・組織拡大へ、
九七春闘―三月ダイ改阻止闘争
を闘いぬこう！

JR総連革マルは、昨年末ま
での「国労解体」方針の完全な
敗北の中で、改めて自らの生き
残りを賭けて、

- ★一月末までを「国労との闘いの中間総括月間」、
- ★二月から三月四日までを「国労との闘いの再討議」
- ★三月四日から四月上旬を「国労との闘いの再展開」

という方針を打ち出し、生き残りに必死となっている。

「JR総連革マルはなぜ「国労解体」か？」

では、なぜJR総連革マルは「国労解体」「動労千葉解体」を唯一の方針にしなければならぬにしろか。

JR総連革マルは、分割・民営化以降三度にわたる「労使共同宣言」―奴隷宣言を締結し、そのもとでJR総連としての「要求」を押し込み、全ての合理化や会社提案を勝手に認めて、それを動労千葉や国労に押しつけてきた。その結果、この一〇年間で凄まじいまでの労働強化が行なわれてきたが、結局は、JR総連革マルがJRと結託してやりたい放題の行なってきた。そうであれば今さら「国労解体」や「動労千葉解体」を叫ぶ理由など何ひとつないの

である。

枕を高くして眠れない
JR総連革マルの姿

しかし、それでも「国労解体」を始めたということは、動労千葉や国労を解体しなければ、JR総連内部にうっ積する不満や怒りを抑えることができなかったという、危機のあらわれに他ならないのである。

分割・民営化での裏切りと一〇万人首切の手先化―二〇〇名を自殺に追いやり、分割・民営化以降の限のない合理化の受け入れ(動乗勤等々)は、JR総連組合員も例外ではありえない。しかし、会社や組合に一切の文句も言えない状況になっている。しかも、JR総連―革マル

ル―ファシスト労働組合という認識がJR内外を含めてあらゆる領域で認知されているのだ。こうした事実を前にして、動

労革マル―JR総連革マルと対決し続け、今も闘いぬいでいる動労千葉や国労の存在は到底許せない、生き残るためにはどうしても解体しなければならぬ、ということなのである。

これは逆に言えば、枕を高くして寝ることもできず、いつも綱渡りのような組織の維持しかできないJR総連革マルの姿―崩壊の淵に立つ姿を現しているのだ。

大胆にJR総連解体・組織拡大へ踏み出そう

国労青年部 1997年2月14日 発行責任者 幸徳高島 編集責任者 高島 編 17

高崎でまたまた 新採加入

22歳青年二人が加入 岡山機関区 日貨労を脱退し国労に

JR貨物 吹田機関区 青年二人が 21歳と 国労加入 22歳の運転士 JR総連から国労加入を報ずる 新聞紙

動労千葉に結集する組合員の切実な要求―強制配転者の「塩漬け」問題や予科生の運転士登用拒否問題、昇進差別問題、合理化の強制による労働条件悪化の問題、そして、労務政策を優先させた結果として業務遂行能力が解体的危機に陥っている会社の現実等々、全ての問題がJR総連革マルに行着くのだ。
JR総連の解体・組織拡大以外に一步の前進もないのだ！
全国でJR総連からの脱退が相次いでいる。
千葉の地でもJR総連革マル解体・組織拡大へ大胆に踏み出そう！
九七春闘―三月ダイ改阻止闘争をJR総連解体闘争として闘いぬこう！